

Ⅱ 具体的な取組

1 学校全体の取組

(1) 人権教育講演会

毎年、講師の先生をお招きし、講演会を行っている。差別の現実から学び、ひとごとではなくわがこととして人権問題に深く関わる意欲を高めている。昨年度はいじめや同和問題、自尊感情をテーマとして講演会を実施した。今年度はパラリンピック競技でもあるゴールボールを体験するなど障がい者問題をテーマに講演会を実施した。

① 弘瀬理沙さん「人権って何？」(平成30年11月)



人権とは何かという話から入り、実際にあった結婚差別などの事例から、同和問題をはじめ差別の現実から学ぶ機会になった。正しい知識をもち、先入観やうわさなどに惑わされない生き方をしていかなければならないという姿勢を生徒がもつきっかけにもなった。

【生徒の感想】

- ・「偏見は自分でとめることができる」という言葉が印象に残りました。「周りが言っているから」などという理由で、偏見を広げ、差別につながるできないように、正しい知識をもって情報を判断していきたいです。2つの体験談を聞いて、差別や人権についての知識は本当に大切だと思いました。周りに流されて自分も差別をすることがないように、また、差別を見なかったことにするような傍観者にもならないように、強い意志をもち、周りの人の差別も止められるようになりたいです。
- ・1番心に残ったことは、一人一人が互いのことを認めるということです。みんなできているようでできていないと思うので、多くの人がお互いのことを認め合っていければ、いいと思うし、自分もしたいです。
- ・学校は正しいことも間違ったことも、自分で体感して学べる場所です。よく聞く悪口も、自分がその人と会って話してみないと分からないということ。私は、今まで、悪口を聞いても、聞き流して、また誰かのことを言よるんやなど、ただ見過ごしているだけでした。でもそうやって聞いた人の中には先入観をもってしまう人だっていると思います。私は、自分の身の回りのこんな近くで、差別の種をまいている人がいると思うとまだまだなのかなあと思います。自分自身が差別をなくす第一歩になるようにがんばります。

② 大湾昇さん「出会いと表現」（平成30年11月）



生徒一人一人との対話を通して、人権とは何かを分かりやすく話してくださった。同和問題やいじめなど差別の現実から学ぶ貴重な機会になった。生徒は真剣な表情で聞き入り、その後の質問や講演の感想からは差別を許さないという生徒の態度が感じられた。

【生徒の感想】

- ・無知でいることの恐ろしさ、差別が人に与える痛みをより深く知ることができました。今日話してくださったことを無駄にしないよう、悲しんでいる人や悩んでいる人の力に少しでもなれるよう生活していきたいと思います。
- ・正しい知識と言葉の意味を理解し、周囲の友達を傷付けないように生きていきたいと思います。
- ・言葉にはとても大きな力があることが分かりました。そして、言葉には、自分はそんな意味で言ったつもりはなくても、人を傷付けるたくさんの意味があることを知った時、今まで自分が言った言葉に人を傷付ける言葉はなかったか、日常の中で知らず知らずのうちに使ってしまったのではないかと、ということ強く感じさせられました。私はこれから、いじめをなくしていくためにもまず、自分の発する言葉に責任をもっていくようにしたいです。そして、友達を大切にしていきたいと思います。

③ 北野真由美さん「お互いの人権を尊重し、多様性を認め合う社会をつくるために」

（平成31年1月）



NPO法人えんばわめんと堺の北野真由美さんから子どもの人権についてお話をしていただいた。お互いが安全で心地よく過ごせる境界線についてや、子どもの権利条約、感情を表現し行動に移すための方法について具体的な事例やワークショップを交えながらの講演だった。

【生徒の感想】

- ・他人を尊重するという事は、とても大切なんだと感じました。言われてみて、本当に私は友達

や家族などを尊重しているのかなと考えました。あまりできていなかったような気がします。私は、思ったことをすぐに口にしたり表情に出してしまうタイプです。それでも、友達は笑ってくれたり、冗談を言ってくれたりしていますが、本当は嫌だと感じていたと思います。ちゃんと考えて発言をできるようになりたいです。でも、周りの意見を気にしすぎたり、流されないようにしたいと思います。

- ・友達との関係の取り方や、自分の気持ちの大切さ、互いを尊重し合うことの大切さなどについて知ることができました。
- ・人の気持ちを大切にすることの大切さを改めて感じました。私と違う意見でも、否定せずにそれも1つの意見として聞くことが大切だなと思いました。私は今まで嫌いな人の悪口とか傷付けてしまうようなことをやっていたかもしれません。だから、もう一度自分の生活を見直していきたいと改めて思いました。

④ 高田朋枝さん「あすチャレ！スクール2019」（令和元年5月）



あすチャレ！スクールとは、パラリンピック競技で活躍している選手をお招きし、講演だけでなく、実際に競技を体験することを通して考える機会をつくる体験型授業である。北京パラリンピック女子ゴールボール日本代表の高田朋枝さんとスタッフの方々が競技説明をしてくださった後、生徒、教員で競技を体験した。高田さんからは障がいのある方だから助けるのではなく、困っている人を助けてほしいという話をしていただき、新たな気づきや学びがあった。

【生徒の感想】

- ・私は、今日「あきらめずに、前を向いていろいろなことに挑戦する」ことの大切さを学びました。たくさん困難はあるけれど、そこで毎回立ち止まっていたら、だめだと気づきました。たくさん時間があるのだから、その時間を、自分や周りの人のために有効に使っていこうと思います。今日、みなさんが私たちのために、このようなすばらしい集会を計画してくださってとてもありがたく思っています。今日学んだことを生かして、これからの学校生活も、がんばりたいと思います。
- ・最後に言っていた言葉がすごく心に残っています。今まで、障がいのある方のことを大変なんだろうなって思っていました。でも今日の話聞いて本当に大切なものは何なのか障がい者の方へかける言葉とか、すごく勉強になりました。これからもがんばってください。応援しています。あすチャレ最高でした。

(2) 学級目標発表会（5月）

毎年、各学級で決定した学級目標を発表する機会を設けている。生徒一人一人がどのような学級にしたいかという思いを出し合っていて決めている。また全校集会という形の中で、司会や発表も生徒が中心となって行っている。活躍の場を設定することにより、主体性を伸ばしている。

(3) 人権意見発表会（6月）

校区内の小学校・高校からも参加を募り、名西郡中学校校区全体での学びの場としている。その予選として、各学年で人権意見発表会を実施しているが、司会など運営面を生徒（人権委員）がすることで、主体性を育てる「場」の設定を継続して行っている。



【学級目標発表会】



【人権意見発表会①】



【人権意見発表会②】

【生徒の感想】

- ・私は今日の人権意見発表会や学年の発表会で、自分の人権に対する意識を改めて考え直すことができました。自分も気付かないうちに心のどこかで差別意識がある、だめなことだと分かっているけど完全には差別意識が消えていないということに、6人の発表を聞いて気付きました。やっぱりどの人権問題に対しても、周りの人たちが知識をもって理解することが大事だと感じました。理解することは、簡単ではないと思うので、私はたくさんの人に正しい知識を伝えていきたいと思います。また、自分の周りで、いじめや差別をする人たちがいたら、傍観者、加害者になるのではなく、自分が正しいと思う行動をとりたいです。
- ・今日の人権意見発表会を聞いて、発表してくれた人たちが、自分のことについて話してくれて、言いづらいことを話す勇気があってすごいと思いました。あまり人には言いたくなかったという言葉もあり、それを乗り越えて伝えてくれたことを、無駄にしないようにと思いました。間違っただけを伝統として受け継いでいかず、正しい知識をもっともたなければいけないと思いました。自分が少しでも周りに気を配り、勇気を出すことができれば、助けることができる人もいるんだなと思いました。これからは、今まで以上に友達の様子を見て、相談にのったり、助けることができたらと思います。

(4) 石中祭（体育祭・文化祭）



【合唱コンクール】



【文化祭有志パフォーマンス】



【体育祭開会式】

① 学級旗づくり（7月）

各学級ごとに学級旗の図案を募集し、各学級単位で決定している。発案者になった生徒の笑顔と自信、さらにその図案を誇りに思う学級生徒たちの笑顔、全員で作成することで協力する喜び、学級への所属感などを高めることをめざしている。

② スローガンづくり（8月）

全校生徒が一堂に会して行う学校祭。そのスローガンを全校生徒から募集した。まず各学級で代表スローガンを決定し、14本の代表スローガンから各学級の代表（総務）が集まる総務会で選挙し、最終決定した。石中祭（体育祭）で、生徒会長より表彰状を贈呈し、発案者を披露している。生徒による学校祭であるという自覚と、そのスローガンを誇りに思う気持ちを育むことをめざしている。

③ 合唱コンクール・全校合唱（9月）

各学年ごとに課題曲・自由曲を歌い、教職員が各項目ごとに審査している。体育祭の練習同様、放課後や休み時間に練習を重ね、学級の絆を深める機会になっている。教職員による合唱や保護者席を囲んで行う全校合唱も行われた。昨年度の全校合唱では「花は咲く」を歌い、この歌詞に込められた思いを人権通信で紹介した。

④ パフォーマンス部門（9月）

生徒の活躍・表現の場になればと願い、文化祭において開催している。希望団体を募り、夏休みを利用しオーディションを行った。ここ数年は、文化祭の後、依頼を受けた数組が町内のボランティアフェスティバルにおいてもダンス等を披露しており、地域との連携を図る機会にもつながっている。

(5) 生徒会活動

① 本部役員 石中祭の運営や全校集会の司会などを行っている。



【あいさつ運動】



【対面式】



【子ども議会】

ア あいさつ運動、清掃活動

生徒会本部役員が中心となって、朝のあいさつ運動やボランティア清掃を行っている。地道な活動であるが、この活動に刺激を受けた生徒が、次期生徒会本部役員に立候補するなど、よき伝統になっている。

イ 対面式（4月）

1年生が入学後には、対面式の中で、部活動紹介や学校生活についての紹介を行っているが、内容については生徒自らが主体となって考えている。

ウ 子ども議会（8月）

町教育委員会や町議会が主催している子ども議会へ代表生徒が毎年参加している。事前に各学級で提案された議題を生徒会本部役員で再度話し合い、子ども議会に提案している。学びやすい学校環境をつくっていくことや、町民として気付いたことを提案することで、人権を守ることや、主権者教育につながっている。

エ オープンスクール（12月）

オープンスクールでは来年度入学してくる児童を対象に体験授業を実施し、校舎案内や部活動の体験も行っている。その際には、3年生が案内を行っている。

オ 入学説明会（2月）

また入学説明会では生徒会本部役員が中心になり、教員と共に町内の小学校に行き、中学校での生活について説明を行っている。中1ギャップを防ぎ、入学後の不安を取り除くことにつながっている。

② 生徒会執行部の活動 毎月、各執行部会で話し合いを重ねている。

ア 人権部



【人権座談会①】



【人権座談会②】



【中・高生による人権交流集会】

生徒自らが、年間の目標を設定して、自他の人権を守るための取組を行っている。地域の方や他の中高生との交流活動にも積極的に参加しており、経験を積み重ねることで、自信を付け、

人権感覚を磨くきっかけになっている。

1. 高川原福祉会館祭（平成30年11月3日）

町内の福祉会館で行われている祭りにボランティアとして、人権委員が参加している。出店された店の手伝いをする中で、地域の方と交流したり、また各学校や団体による人権啓発のパネル展示には、本校の1年生が実施した福祉体験学習の感想やまとめを展示している。

2. 人権座談会（平成30年11月27日）

隔年で、町内の人権擁護委員と法務局の方をお招きし、人権座談会を行っている。事前に人権委員から出てきた、人権に関する疑問を中心に質問し、その後グループ別に時間をかけて話し合いを行った。テーマは女性、同和問題、いじめ、障がい者、携帯電話・インターネットによる人権侵害、外国人について話し合った。

イ JRC部



【募金活動】



【トレセン】



【ボランティアフェスティバル】

6月に1年生の青少年赤十字の登録式を行い、活動の意義を確認している。8月のトレセンには教員と生徒が参加している。募金活動やアルミ缶回収も随時行っており、生徒の積極的な参加がみられた。JRC部の活動以外にも校内全体でボランティアの参加を呼びかけている。毎年、数名の生徒が吉野川の河川敷清掃や町内のボランティアフェスティバルに参加している。

(6) 人権通信の発行

年に数回、人権通信を発行している。人権教育の活動や生徒の感想を中心に紹介している。ホームページにも掲載することで、生徒だけではなく、保護者や地域の方に対しても人権啓発を行っている。

(7) Hyper-QU, 人権アンケートの実施

年に各2回ほど、実施しており、自尊感情の高まりを把握し、学級経営や人権教育の方向性を決定する上で大切な材料になっている。

(8) 中・高生による人権交流集会への参加（中部ブロックスタッフ）

中部ブロックでは「在日コリアン」をテーマに中学生と高校生が共に学びながら、本大会に向けて学習を進めてきた。本校の生徒もスタッフとして生徒部会やスタッフミーティング等に積極的に参加した。校外学習では神戸市長田区に赴き、阪神淡路大震災の爪痕がまだ残る地区の様子をフィールドワークで学習した。本大会では小グループでの話し合いの中、学んできたことを一生懸命伝えようとする生徒の様子を見ることができた。スタッフを務めた生徒の一人が今年度の人

権意見発表会において「在日コリアン」をテーマに作文を書き、学年代表になるなど、周囲への広がりも感じられた。



【校外学習（神戸市長田でのフィールドワーク）への参加】

【生徒の感想】

- ・参加するまでは「在日コリアン」という言葉について詳しく知りませんでした。お話の最初の方は「在日コリアンとは何だろう？」というところからしてくださって、非常に分かりやすかったです。この学習をするにあたって調べてみたのですが、やはり実際に話を伺ってみると、少し違うと感じました。ネットだと個人が自由に真実かどうか分からないことも載せることができます。だから、うのみにしたり、見てしまったりすることで、無意識のうちに自分たちの心の中にある差別心が大きくなってしまふのだと思いました。他人事としてではなく、今考えるべき問題として、考えていきたいです。そのため、また人権の会に参加して、考えを深めていきたいです。

(9) 「知」の総合化ノート（和ファイル）の作成

学んだことを生活の場に関連づけ、行動化することが課題であると捉えている。その手立てとして日々の学びを自ら振り返り自信を積み上げたり、自己の課題を発見し、既習の知識や技能、体験等を活用しながら課題解決を支援したりする「和ファイル」を活用してきた。

社会に出るまでにどのような力を身に付けておきたいかについて、生徒一人一人にブレインストーミングをさせ、学年全体で共有化し、「和ファイル」の見出しを決定した。今年度は「課題解決能力」「人権意識・人権感覚」「コミュニケーション能力」「その他」とした。各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間や、部活動、普段の生活の中での学びを名刺大の用紙に記入し、シートに貼っていく。既習の内容とのつながりやこれからの自分の生活についても考えることで、自分を見つめる時間となるよう設定した。

(10) 教職員研修

① 校内研修会

ア 授業研究会

校内研究授業（大研）を各学期に1回行っている。各学年が1回ずつ行い、研究授業後は、全教職員が参加し、授業研究会を行った。また大研だけでなく、全担任が公開授業（小研）を行い、学年ごとに授業後の検討会を行った。授業研究会では、「授業の展開」「発問の方法」「板書の方法」「生徒の反応」の4つのテーマに分かれ、事前に記入した付箋の内容をもとに話し合いを行い、共通理解を図った。講師の先生から指導助言をいただき、次回の授業へつなぐとい

う形をとった。

イ 指導案の書き方や地域教材についての研修会

昨年度の第1回授業研究会において、人権教育課田中貴之指導主事を招き、指導案の書き方についての研修を行った。[第三次とりまとめ]や「徳島県人権教育推進方針」「“あわ人権学習ハンドブック”の活用について改めて確認した。また過去に取り扱われた地域教材や学習会の歴史についても研修した。教職員の年齢差も大きくなり、これまでの同和教育において培ってきた実践の成果や課題を次の世代に引き継いでいくことが大きな課題となっている。

ウ Hyper-QU研修会

2013年度から、個人票で一人一人と話し合いのできるHyper-QUを全校生徒対象に実施している。「観察・面接・調査」と、より多面的な視点から生徒を見つめたことを学年団で共有したり、三者面談で家庭とも連携を図ったりしている。学級経営を見つめ直したり、個別の支援計画を立てていくために、活用方法について共通理解を図る機会を毎年設けている。



【授業の改善点などを付箋に記入し貼る】



【各班で話合ったことを発表】

② 校外研修会

毎年、12月に開催される「石井町総ぐるみ人権啓発研修大会」に教職員が参加し、人権意識を高めている。この研修大会では町内の小中学校代表の児童・生徒による人権作文の発表や名西高校生徒による人権コンサートも行われ、小中高の連携だけでなく、地域とのつながりを感じることもできる貴重な機会になっている。

また各人権教育研究大会への参加や町内の小学校の人権教育主事との情報交換会も行っている。各小学校での人権教育の取組を知ることにより、中学校での人権教育年間計画や授業の進め方に役立てることができている。